

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	かわさきくにみやません 川崎国見山線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	三好市(旧池田町・西祖谷山村)																	
事業概要	【目的】 本路線は三好市山城町下川の国道32号を起点とし、同市池田町川崎地区を經由して同市西祖谷山村尾井ノ内の市道尾井ノ内後山線を終点とする林道で、この林道の開設により、森林の適正な管理や保全、効率的な森林施業を推進するとともに、木材等の林産物運搬距離の短縮や災害時の迂回路として利用する等、森林整備・林業生産等の促進と生活基盤の改善を図ることを目的としている。																			
	【内容】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 30%;">2,356ha</td> <td style="width: 40%;">[人工林面積:1,575ha (67%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>395戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>4.0～5.0m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>20,840m</td> <td>(うち平成30年度末の供用予定延長 15,158m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>6,400,000千円</td> <td>(うち平成30年度末の実施予定事業費 4,856,691千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>昭和61年度～平成41年度</td> <td>(44年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	2,356ha	[人工林面積:1,575ha (67%)]	受益戸数(森林所有者数)	395戸		幅員	4.0～5.0m		計画延長	20,840m	(うち平成30年度末の供用予定延長 15,158m)	総事業費	6,400,000千円	(うち平成30年度末の実施予定事業費 4,856,691千円)	事業予定期間	昭和61年度～平成41年度
利用区域面積	2,356ha	[人工林面積:1,575ha (67%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	395戸																			
幅員	4.0～5.0m																			
計画延長	20,840m	(うち平成30年度末の供用予定延長 15,158m)																		
総事業費	6,400,000千円	(うち平成30年度末の実施予定事業費 4,856,691千円)																		
事業予定期間	昭和61年度～平成41年度	(44年間)																		
評価項目	【事業の進捗状況】 起点側池田町では8,781m、終点側西祖谷山村で6,377m(計15,158m)が供用されている。 近年の公共事業の伸び悩み等により事業予算が減少していることや、急峻な地形が多く開設コストが高く開設延長が伸び悩んでおり平成30年度末の進捗率は73%となっている。 <div style="text-align: right;">[進捗率:72.7%]</div>																			
	【関連事業の整備状況】 西祖谷山村側の供用開始した区間では、県営林素材生産事業において、木材生産量増に向け森林作業路の作設後、森林整備を行い間伐材の搬出が行われている。今後も引き続き森林整備の計画があり更なる森林整備の促進が期待される。 また、池田町側でも林道開設後に作業路を整備し、間伐材の搬出等木材生産が盛んに行われるなど、これまでに延べ1,496haの森林整備が実施されている。																			
	【社会経済情勢の変化】 <ul style="list-style-type: none"> ・本県は県土の75%を森林が占め、人工林率も高いことから、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展と併せて、土砂災害の防止や温室効果ガスの固定など、森林の有する多面的機能の維持が強く期待されている。 ・森林資源は、人工林を中心に、この40年間で約3倍にまで増加しており、特にスギ人工林は、今後5年間で樹齢50年生以上が50%を超える見込みとなるなど、成熟期を迎えている。 ・また、県内には製材業や家具製造業が古くから発達しており、「合板工場」や「MDF工場」のほか、「大型製材工場」の進出など、多様な加工体制を有している。 ・円安の進行や社会情勢の変化などによる国産材需要は増加傾向にあり、さらなる県産素材の供給強化が求められていることから、木材の効率的な生産・加工・流通の実現に向けて、川上と川下が一体となった取り組みを総合的に進めることが重要となっている。 ・県では、平成27年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目的とした「新次元林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量や林業従事者の増加など成果を上げている。 ・目標を達成するうえで、木材生産にあたっては、より生産性の高い「高密路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備と普及を進めており、高密路網の中核を成す林道整備が必要不可欠となる。 																			
【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し																				
目	【事業効果の発現状況】 供用開始した区域を利用して、昭和61年度から平成29年度までに延べ1,496haの森林整備を実施している。今後、供用区間が増加するに伴い、さらに森林の整備や保全のための施業が進んでいく見込みである。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.16 (国の採択基準は1.0以上)</div>																			
	【受益者・関係機関の意向】 地元三好市をはじめ森林所有者等も、地域林業及び地域の活性化及び緊急時の避難路及び迂回路の機能も持ち合わせることから早期完成を強く望んでいる。																			
【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。																				